

TOPICS

01 ● 2015トラフィック セーフティ・フォーラム in 埼玉 職場内の意識と行動で安全・安心な風土の確立



開会の挨拶を述べる(株)レインボーモータースクールの佐竹正規取締役社長

昨年11月25日、ソニックシティホール(埼玉県さいたま市)で「2015トラフィック セーフティ・フォーラム in 埼玉」が開催された(主催:交通教育センターレインボー埼玉・和光)。このフォーラムは、交通安全活動に取り組む企業や団体を対象に事故防止の施策などの情報交換を目的に行われており、この日は企業・団体から328名が参加した。

開会にあたり、主催する(株)レインボー

モータースクールの佐竹正規取締役社長と、来賓を代表して埼玉県警察本部の近藤峰彦交通部交通企画課交通安全対策推進室長が挨拶を行った。

今年のテーマは「職場内の意識と行動で安全・安心な風土の確立」。交通

事故防止活動の好事例として、2つの企業の安全担当者が発表を行った。

カンダホールディングス(株)品質管理室の大岡克課長は、同社を中核とする総合物流商社のカンダグループにおける安全への取組みについて説明。カンダグループの独自ライセンスであるセーフティアドバイザーの育成や、初任運転者(入社3年未満)を対象にした交通教育センターレインボー埼玉での実技研修など、交通事故を防止す



カンダホールディングス(株)品質管理室の大岡克課長

るための具体策を紹介した。

また、(株)ライドオン・エクスプレス教育部の佐藤真一グループマネージャーは、三輪スクーターで寿司や弁当などの宅配業務を担う若年層のスタッフへの安全運



(株)ライドオン・エクスプレス教育部の佐藤真一グループマネージャー

転教育について説明。採用から3ヵ月以内に事故が多発していることから、Honda動画KYTを取り入れるなど入社時のスタートアップ研修を充実させたことを紹介した。

そして事例発表の後、自動車安全運転センター安全運転中央研修所の太田耕平副参事理論代表教官が「安全に対する意識を高め、安全運転行動を実践させるための方法」というテーマで講演を行った。安全運転行動を実践するためには「自分を知ること(メタ認知)」が重要であると述べ、そのために「見落とし」「思い込み」を引き起こす人間の特性と、それらを防ぐための方法についてアドバイスした。



自動車安全運転センター安全運転中央研修所の太田耕平副参事理論代表教官

02 ● 沖縄県・教習指導員二輪車安全運転競技大会 沖縄県内の教習指導員が二輪車の安全運転技能を競う

昨年11月29日、沖縄県警察本部運転免許センター(沖縄県豊見城市)で「第1回教習指導員二輪車安全運転競技大会」が開催された。この大会は(一社)沖縄県指定自動車学校協会が主催したもので、県内指定自動車教習所から普通自動二輪車の教習指導員31名が選手として参加した。

同協会の下地一彦専務理事は「沖縄県内における教習指導員の二輪車安全運転技能や指導能力の向上を目的として、今回初めて開催しました。個人総合部門の優勝者は、今年6月に鈴鹿サーキットで開催される全国自動車教習所教習指導員安全運転競技大会(主催:本田技研工業(株)安全運転普及本部)の二輪部門に県代表選手として派遣することになっています。そのため、競技規則・審査基準やコース設定は全国大会に準じたものとなりました」と話す。

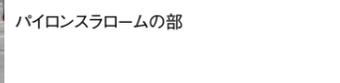
競技に使用する車両は、各自動車教習所において、教習車両として使用している普通自動二輪車(排気量400cc)。選手は「ブレーキング」「パイロンスラローム」「コーススラローム」「一本橋走行」の4種目の競技に取り組んだ。個人総合の部では壺川自動車学校(豊見城市)の海勢頭秀行さんが優勝。また、2名以上の選手が出場した自動車教習所を対象とした団体の部では、津嘉山自動車学校(南風原町)が第1位となった。

この大会には選手のほかに26名の教習指導員が審判員として協力している。

「競技に参加した選手はもちろんですが、教習所全体のレベルアップにもつながっていきたくて考えています。また、各自動車学校の経営者からの評判もよく、今後は大型二輪部門を設けるなど、内容を充実させ継続していきたい」と下地専務理事はいう。



ブレーキングの部



パイロンスラロームの部



コーススラロームの部



一本橋走行の部

03 ● 2015年 Honda 安全運転普及本部 年末ご挨拶会 すべての人が安心して、どこへでも自由に移動できる喜びのある社会の実現に向けた取組みを強化



八郷隆弘・本田技研工業(株)代表取締役社長

昨年12月4日、Honda 青山ビル(東京都港区)にて「2015年 Honda 安全運転普及本部年末ご挨拶会」が開催され、交通関係者約300名が参加した。

報告会では八郷隆弘・本田技研工業(株)代表取締役社長が「Hondaは、すべての人が安心して、どこへでも自由に移動できる喜びのある社会の実現をめざしています。特に交通安全に関しては、クルマ社会が

かかえる課題である交通事故や渋滞、高齢化に伴う移動の問題に真摯に取り組んでまいりました。安全運転の支援においては、Honda SENSING という技術を進化させた先に自動運

転の実現があると考え、Honda SENSING の機能向上、適用の拡大に取り組んでいます。そして、1970年に設立した安全運転普及本部が行政、販売店、地域社会などと連携し、幼児から高齢者にいたるまで、安全意識の高揚や行動の改善をめざし様々な取組みを進めています。今後も、『自由な移動の喜び』と『豊かで持続可能な社会』の実現に向けて、チャレンジを続けてまい

ります」と挨拶。

続いて、吉田宏樹・本田技研工業(株)安全運転普及本部事務局長が、2015年の安全運転普及活動の報告と今後の取組みについて映像を交えて紹介した。

最後に、来賓を代表して掛江浩一郎・警察庁長官官房審議官が挨拶。「幼児から高齢者まで、交通社会に参加するすべての人の安全をめざすという崇高な理念に基づき、ヒト、テクノロジー、コミュニケーションという3つの領域でそれぞれ熱心な取組みを行っていることに感銘を受けました。特に昨今、課題となっている高齢者の安全対策として、高齢歩行者プログラムを開発

されたことはたいへんすばらしいと思います。引き続き、先進性・独自性のある活動を推進してほしい」と述べた。

報告会の後には、懇談会が開かれ、交通関係者の交流の場となった。



掛江浩一郎・警察庁長官官房審議官